

支援対象競技会：Blackpool Dance Festival 2019

出場部門： OVER50ラテン部門

国松正尚 千絵組

憧れのブラックプールに備え、自主合宿も終え、出発まであと2週間という気合いの入った練習中、サンバで転んだリーダーに巻き込まれ、手首を複雑骨折。

一生の不覚。

という訳で、ギブスでの渡英となりました。
せっかくご支援頂きました J.A.L 様 JDC 様、結果を出すどころか、スタート地点に立つ事も出来ず、大変申し訳ございません。

大木様には「見る事も勉強、それを来年に活かさない」とお声をかけて頂き、一週間ひたすらウィンターガーデンで観戦して参りまして、気付いた事をいくつかレポート致します。

①常に観客を意識して踊る

前列で観戦していると、とにかく選手と目が合います。プロは勿論ですが、アマでもシニアでも観客へのアピールが素晴らしい。

観客側もアピールに応じて惜しみなく拍手や声援を送り、フロアの選手との一体感が感じられました。

②アイコンタクト

踊っている時に二人の視線が合っていない！と、私達(特にリーダー)はよく注意されるのですが、そのリーダーが「相手を見ているか、見ていないかって観客側にも伝わるものなんだな～」と反省しきり。特に欧米の選手はアイコンタクトによる二人の空間作りに長けている気がしました。

ただあの under21 がサラッとやってのける情熱的、蠱惑的な視線の絡みを over50 の私達が出来るかどうかは残念ながらまた別問題ではあります。

③身体で音楽を奏でる

全身で音楽を感じ、身体で音楽を表現することが非常にナチュラルに出来ているように思いました。

カウントではなく音楽で踊る。耳をふさいだとしても、



曲が聞こえてくるようなダンスに圧倒されました。
何をさせたいかがはっきりと伝わる、音に合わせた緩急の使い分けが、見ていて気持ちいいものでした。

④ボディムーブメント

2階のバルコニーからでも、ベーシックステップは勿論、複雑なルーティンの時も常にボディムーブメントがあってから、フットワークに繋がっているということがはっきりとわかりました。

表現が難しいのですが、上から見てみると、丸く進んでいくような印象がありました。(私達は進もうとすると「ぬりかべ」のように平たく進んでしまいます。)ベーシックをきっちりやり切る事によって、踊りのボリューム・強さを際立たせる。目を引くカップルは例外なくこの点が優れているカップルだった気がします。

おかげさまで大変勉強になりましたが、やはりフロアに立ちたかったです！今回学ばせて頂いた事を大切に練習に取り入れて、自分達のダンスの向上に役立て、必ず来年リベンジ致します。このような機会を頂きまして本当にありがとうございました。